

目 祐介



大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.17

毎月1日号に掲載

に活用するかが、福山市の将来を大きく左右すると考えている。できれば多くの市民が集える場所・施設とし、賑わいあふれる拠点としてほしいと思う。

まず、噂のショッピングモールが進出した場合は確かに賑わうだろうが、既に市内はオーバーストアの状態にあるため既存店と競合し、駅前もますます寂れるだろう。住宅地にしたとしても、賑わいの創出には繋がらない。では市内に足りない賑わいの創出施設は何かと考えると、スポーツ施設等の「広場」が挙げられる。体育館や武道館は老朽化しており、建て替え場所としても良い。芦田川河川敷と隣接していることからマラソン大会の発着点としても良いだろう。

以前にも触れたが、新たな公共交通としての路面電車の結節点としても有望ではないか。ドイツ・フランスでは中心部から車を排除し路面電車(トラム)によるまちづくりを進めている。まちづくりは長い年月を要する総合的な作業であり、歴史・市民意識・財政・政治・文化・技術・経済等、考慮しなければならぬ要素は多い。しかし、今こそ「住みよいまちづくり」とは何か、真剣に考える時期だろう。

競馬場の跡地問題

ふくやま競馬が3月末で廃止が決定されるやいなや、跡地の活用はどうなるのかという話題が巷やネット上で沸騰した。中には大手ショッピングモールと市長の密約が成立しているという噂もまことしやかに流されていた。しかし、競馬事業が続行されている現段階で跡地利用が決定されたかのような風評は、競馬関係者に対して甚だ失礼ではないかと感じる。

市中心部に残された15haという広大な跡地利用については、時間がかかっても慎重に検討するべきだろう。今後発生する費用として、約19億円の赤字の一般会計からの補填、関係者に対する補償、施設の解体撤去費用等、約40億円程度が見込まれている。跡地を売却してその費用を捻出すれば良いという意見も当然出るだろうが、私はこの土地を売らずにこのよう